

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 14 日現在

機関番号：14401
 研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22520531
 研究課題名（和文） 初対面接触場面における話題管理に関する研究
 研究課題名（英文） Topic Management during Contact Situations at First Encounters
 研究代表者
 三牧 陽子（MIMAKI YOKO）
 大阪大学・国際教育交流センター・教授
 研究者番号：30239339

研究成果の概要（和文）：同性社会人2者間の日中・日韓接触場面初対面会話の録音録画資料とアンケート、インタビュー資料を、使用言語と会話の場所（国）を操作して収集、分析した結果、母語場面とは異なり、異文化成員カテゴリーの話題が使用言語と場所に関わらず共通して話題化される強い傾向が認められた。その様相を相互行為から質的に分析するとともに、使用言語と場所からホスト・ゲスト意識が会話参加者に「役割行動」として捉えられ、接触場面会話への参加の仕方を規定していることを指摘した。

研究成果の概要（英文）：We analysed the recorded data of the conversations between two adults with full-time jobs of the same sex at first encounters in the contact situations between Japanese and Chinese and between Japanese and South Korean, manipulating the languages used and places (countries) of the conversations, as well as the questionnaires and the interview data from the participants of the conversations. As a result, we found the strong tendency that the topics related to the intercultural membership categories raised consistently in the conversations regardless of the language used and the place of conversations, which differed from the result of the native situations. We also found that the recognition of the “role behavior” which was affected by the language used and the place where the conversations took place regulated the way of participation in the conversation held in the contact situations.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	1,400,000	420,000	1,820,000
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：異文化理解、異文化間コミュニケーション、初対面会話、接触場面、話題管理、ホスト／ゲスト役割意識、異文化成員カテゴリー、相互行為

1. 研究開始当初の背景

グローバル化が一層加速しつつある現代社会において異文化間コミュニケーションの重要性は増す一方である。しかし、異なる母語、社会文化的背景を持つ話者間のコミュニケーションに際しては、自文化および相手

文化のコミュニケーションスタイルに関する十分な理解がないと不必要な違和感が生じ、コミュニケーションが円滑に進行せず、人間関係構築やビジネスや政治経済面に影響することも考えられる。

そこで、会話参加者間の違和感やディスコミュニケーションに結びつく可能性のある現象として、初対面場面において殊に意識されやすい話題管理（話題選択、話題回避、話題の展開等）に注目することは、その後の人間関係構築やコミュニケーションにとって、重要な観点であると考えた。研究開始時において、接触場面の話題管理に関する先行研究の多くは、日韓、日台、日中など2言語間の対象研究に留まっていた。我々は、接触場面研究に先行して日米中韓母語話者社会人の初対面会話の話題管理に関する研究（平成19年度～21年度科研費助成研究「初対面コミュニケーションにおける話題管理スキーマに関する日米中韓対照研究」）で、分析対象を日米中韓の4言語に拡大し、さらに従来研究対象になることの少なかった社会人を対象として初対面会話を収集し、アンケート、インタビューも併用して各母語文化における話題管理スキーマの異同を実証的に明らかにした。

上記の母語場面における各母語の話題管理スキーマを踏まえ、社会人にとってもっとも接触の機会が多い日中、日韓の接触場面における話題管理の様相を各母語場面における話題管理の様相と対比しながら実証的に明らかにすることは、従来の研究にない課題である。

2. 研究の目的

会話に表出された言語行動と個々の参加者の意識とをもちに、初対面の日中・日韓接触場面における各母語特有の話題管理スキーマの表出の様相および接触場面に特有の調整の形態などを、次の観点から総合的かつ実証的に明らかにする。

- (1) 相手文化の話題管理に関する知識や接触経験の多寡が話題管理行動に及ぼす影響について検証する。
- (2) 会話の場所（国）と言語を入れ替えて設定することにより、母語話者と非母語話者のホスト／ゲスト意識が言語行動に及ぼす影響を検証する。
- (3) 話題管理行動に関して、母語場面と接触場面の異同を検証する。

3. 研究の方法

表1の通り、使用言語と会話の場所（国）を操作し、日中および日韓接触場面における同性社会人2者間の初対面会話録音録画資料を収集した。調査協力者は、女性ペア・男性ペア合計31ペア62名である。会話終了後には、話題選択／回避に関する母語によるアンケート調査、および接触場面会話について

の感想や初対面会話に関する母語によるインタビュー調査を実施した。

表1 収集資料

接触場面	調査地	ペア	言語	実施
日中	日本（大阪）	10	日本語	H22
	中国（大連）	8	中国語	H23
日韓	日本（大阪）	4	日本語	H22
	韓国（ソウル）	9	韓国語	H24

調査参加者は調査国において常勤職を有する25歳～38歳の社会人で、それぞれの相手言語母語話者との接触が多いこと、非母語話者参加者には業務遂行可能な程度の相手語能力を有することを条件とした。職種は、事務職・技術職・教育職等であった。会話収集にあたっては、事前に直接顔を合わさないようにした上で同時に部屋に案内することによって完全な初対面状況を作り、15分間自由に会話するよう指示を与えた。会話資料は使用各言語において忠実に文字化し、中国語および韓国語資料は日本語に翻訳した。

4. 研究成果

(1) 接触場面における話題選択

① 異文化成員カテゴリー的話題

初対面接触場面会話においては、「～語」「～人」「～国」のような異文化成員カテゴリー的話題が、使用言語と場所に関わらず共通して話題化される強い傾向が認められた。具体的には、使用言語の非母語話者の「使用言語に関する能力と学習」「滞在歴と滞在の経緯」「日中／日韓比較」等である。以上の結果は、初対面接触場面においては初対面母語場面とは異なり、接触場面であることを強く意識した特有の話題選択スキーマが強力に活性化することを示している。

② 言語運用能力と異文化成員カテゴリー的話題の展開

同じく異文化成員カテゴリー的話題が取り上げられても、その展開の仕方や話題の深さには、当然ながら言語能力が大きく関与していることが明らかになった。

・使用言語能力が不十分な場合（参加条件から外れた中級程度の言語能力の参加者が含まれていた）には、異文化成員カテゴリー的話題のみが取り上げられ、「事実」確認のレベルに留まり次々に情報として展開する展開に終始していた。＜事実中心パターン＞
 ・一方、十分な相手言語能力がある場合には、基本的な異文化背景の交換の後に、両国を念頭に社会問題等を論じたり、内面的な話題（異文化葛藤）をより深いレベルで議論した

りする等の展開を示す例も見られた。〈議論展開パターン〉

・また、異文化成員カテゴリー的話題以外(共有成員カテゴリー等)が選択されるのは、高い言語能力がある場合に限定されていた。

(2) ホスト/ゲスト役割意識

異文化成員カテゴリーのうち外国人側のみのカテゴリーが明示的に問われることがもっとも多く、さらに外国人側の経験等が中心的に話題化される参加者間の不均衡な傾向が日本/中国/韓国調査に共通していた。つまり、初対面における言語行動は、言語と場所を変更しても共通性があり、ホスト・ゲスト役割意識が強く働いているものであることが指摘できる。一方、非母語話者がゲストとして場面を協同構築する様子も観察された。

ホストであると意識した母語話者参加者によるホスト的役割行動は、談話の管理(話題転換、沈黙の処理、インタビュー的展開、援助的態度)、相手への評価(言語能力、外見・容貌に関する言及)、テリトリー意識の表出(文化や国を代表するかのよう発言、お茶を勧めるといったホスト的实际行動)に、ゲストであると意識した非母語話者参加者によるゲスト的役割行動は、不均衡なまでの協調的な自己開示や、期待される「外国人性」を持ち出す行動(例: 苦手な食べ物として生ものを自ら持ち出す)等として表出されていた。以上から、ホスト・ゲスト意識は会話参加者に「役割行動」として捉えられ、接触場面会話への参加の仕方を規定していると言える。

(3) 豊富な接触経験が話題管理行動に及ぼす影響

母語場面における話題選択スキーマにはない相手文化の話題選択スキーマに即した話題(例: 日韓接触場面で、日本語母語話者が結婚や年齢を自ら話題化する)を選択する例が多く見られた。会話終了後のインタビューで、当該話題が自文化では回避するが、相手文化では一般的であることが理由として挙げられることが多く、豊富な接触経験から両文化の話題選択スキーマを経験知として獲得した上で、各場面に適切な話題として調整的に選択していることが明らかになった。

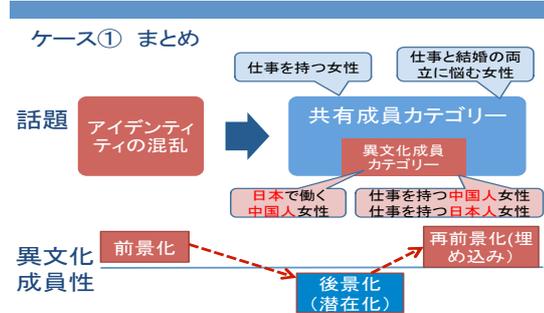
(4) アイデンティティと異文化成員カテゴリーの前景化・後景化に関する相互行為分析

異文化成員カテゴリー自体が話題として展開する例が多く見られたが、各ペアの会話全体を通して見ると、常に異文化成員カテ

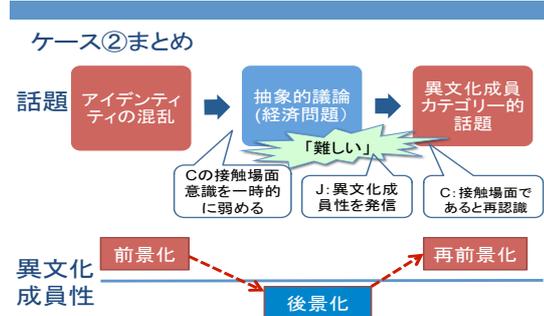
グリーが前景化しているとは限らない。日中接触場面会話において、中国語母語場面に多く見られる「議論展開パターン」を示したペアのうち、異文化成員カテゴリーの前景化/後景化の興味深い様相を示した3例を取り上げ、詳細に分析した。いずれも非母語話者は母語話者並みの非常に高度な運用能力を有していた。興味深いのは、会話の早い段階で、母語話者から非母語話者のアイデンティティ(日本人か中国人か)に関して混乱の表明・話題化がなされたことが3例に共通していたことである。

以下に、それぞれのケースごとに、話題が異文化成員カテゴリー的話題か否かという観点からの流れ、その流れの内容等特記すべき点、各話題において異文化成員性が前景化しているか後景化しているか、等を図式化して示す。

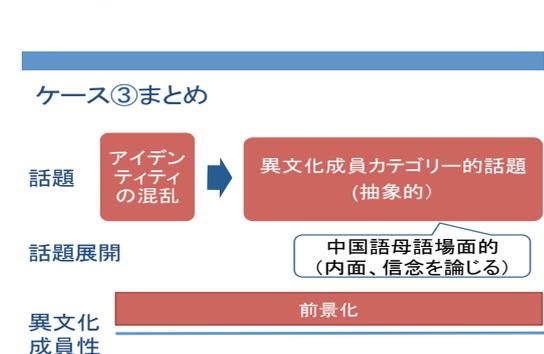
ケース① (日本語データ: 滞日6年11ヵ月)



ケース② (中国語データ: 滞中6年9ヵ月)



ケース③ (中国語データ: 滞中8年9ヵ月)



以上から、異文化成員カテゴリーが後景化していても、潜在化しているだけであったり（ケース①）、異文化性の発信のようなきっかけがあったりすれば（ケース②）再前景化しやすいこと、極端に相手文化に近い場合には、逆にそのアイデンティティ自体が引き金となり異文化成員カテゴリーが一貫して前景化する場合もあるが、より内面的・抽象的なレベルにおいて話題が展開すること（ケース③）が指摘できる。いずれも、異文化成員カテゴリーが一時的に後景化したとしても、容易に再前景化しやすいほど、接触場面においては異文化成員カテゴリーが強く意識化されていることを表していると分析できる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計2件）

- ① 三牧陽子・難波康治、接触場面初対面会話における異文化成員カテゴリーと話題内容の様相-言語運用能力およびアイデンティティに注目して-、社会言語科学会第31回大会発表論文集、査読有、(2013)、96-99
- ② 難波康治・三牧陽子、接触場面初対面会話に現れるホスト・ゲスト役割意識の様相-大阪と大連における社会人調査の比較を通して-、社会言語科学会第31回大会発表論文集、査読有、(2013)、62-65

〔学会発表〕（計3件）

- ① 三牧陽子・難波康治、接触場面初対面会話における異文化成員カテゴリーと話題内容の様相-言語運用能力およびアイデンティティに注目して-、社会言語科学会第31回大会、2013.3.17、統計数理研究所
- ② 難波康治・三牧陽子、接触場面初対面会話に現れるホスト・ゲスト役割意識の様相-大阪と大連における社会人調査の比較を通して-、社会言語科学会第31回大会、2013.3.16、統計数理研究所
- ③ 三牧陽子、社会人初対面接触場面会話における異文化成員カテゴリーの前景化、世界日本語教育研究大会 ICJLE2011、2011.8.20、中国：天津外国語大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三牧 陽子 (MIMAKI YOKO)

大阪大学・国際教育交流センター・教授

研究者番号：30239339

(2) 研究分担者

難波 康治 (NAMBA KOJI)

大阪大学・国際教育交流センター・准教授

研究者番号：30198402